

要望演題 | 2-03 外科治療遠隔成績

## 要望演題2

### 両側肺動脈絞扼術

座長:

新保 秀人 (三重大学)

原田 順和 (長野県立こども病院)

Thu. Jul 16, 2015 11:00 AM - 11:50 AM 第4会場 (1F ジュピター)

I-YB2-01~I-YB2-05

所属正式名称: 新保秀人(三重大学医学部 胸部心臓血管外科)、原田順和(長野県立こども病院 心臓血管外科)

### [I-YB02-03]両側肺動脈絞扼術を施行した左心低形成症候群の中遠隔期成績

○菅野 勝義, 村田 眞哉, 井出 雄二郎, 城 麻衣子, 菅野 幹雄, 黒澤 博之, 伊藤 弘毅, 今井 健太, 坂本 喜三郎 (静岡県立こども病院 心臓血管外科)

Keywords: 左心低形成症候群, 両側肺動脈絞扼術, 遠隔成績

#### 背景と目的

我々は HLHS に対し、両側肺動脈絞扼術を先行し、約1か月後に Norwood 手術を行う、rapid two stage strategy を採用している。以前我々は、normal risk の一期的 Norwood 群 (pNW) と high risk 症例を含む rapid two stage strategy 群 (bPAB) を比較し、早期死亡率に差がなく、bPAB で Norwood 術後乳酸値が低く、24時間尿量が多く、クレアチニン値が低値であり、術後管理安定に寄与すると報告した。この度は、両群の Fontan 後も比較する。

#### 対象と方法

2005年から2010年に出生した HLHS (variant 含む) のうち、pNW 16例 (2005-2008) と、bPAB 14例 (2009-2010) を比較。他院で両側肺動脈絞扼術を施行されたものは除外。最終的に2心室となったものも除外。Glenn, Fontan 到達年齢および Fontan 後カテーテルデータを比較。幼児期以降に発達検査を行った患児は、発達遅滞の有無も比較。知能指数 (IQ) 70未満または発達指数 (DQ) 70未満を発達遅滞とした。

#### 結果

生後3か月以内死亡 pNW 1, bPAB 1, NW 後 Glenn 前死亡 pNW 2, bPAB 2, NW-Glenn 後 Fontan 前死亡 bPAB 1, Fontan 到達 23例。

(以下すべて pNW / bPAB)

Glenn 時月齢  $6.1 \pm 1.8 / 5.6 \pm 1.4$   $p=0.51$  Fontan 時月齢  $26.1 \pm 13.6 / 20.0 \pm 7.8$   $P=0.22$  inter-stage に施行した追加手術数の平均  $0.54 \pm 0.97 / 0.36 \pm 0.51$   $P=0.60$  bPAB に起因する肺動脈形成術施行例は無かった。

#### Fontan 後1年

Fontan 圧 (mmHg)  $11.9 \pm 1.6 / 12.4 \pm 2.2$   $P=0.57$  CI (L/min/m<sup>2</sup>)  $3.2 \pm 0.7 / 3.2 \pm 0.6$   $P=0.99$  EDP (mmHg)  $6.3 \pm 2.9 / 7.0 \pm 3.7$   $P=0.65$  CTR  $0.53 \pm 0.05 / 0.56 \pm 0.04$   $P=0.13$

#### Fontan 後5年

Fontan 圧  $10.7 \pm 2.2 / 10.7 \pm 3.8$   $P=1.00$  CI  $3.7 \pm 0.4 / 3.6 \pm 0.7$   $P=0.87$  EDP  $6.2 \pm 2.4 / 5.0 \pm 1.7$   $P=0.45$  CTR  $0.48 \pm 0.05 / 0.50 \pm 0.02$   $P=0.64$

発達検査が施行された 17例 (pNW 12, bPAB 5) のうち、発達遅滞 7例 (pNW 5, bPAB 2  $p=1.00$ ) であった。

#### 結語

現時点では遠隔成績にも両群に差はなく、Norwood 術後の安定性を享受できるとすれば、rapid two stage strategy の有用性は揺るがないと考える。